

一

問一 ① 利他 ② 利己 ③ 利己 ④ 利他 ⑤ 利己

問二 社会貢献事業に取り組んでいることをアピールする企業には、純粋な利他目的ではない、自社のイメージアップを図って利潤につなげたいという利己的な目的がある、と思うということ。

問三 おいしいものを食べさせたい、という利他的動機による他者からのおすすめは、それが頭木さんの難病によって食べられないものの場合、受け入れれば自らの命を危険にさらし、断れば場の空気を悪くし相手の気分を害して、利己的な同調圧力を強められてしまい、関係を壊してしまう可能性があるため恐ろしい、ということ。

問四 贈り物をもらうと、感謝とともに、もらったものに見合った返礼をしなければならぬというプレッシャーがかかり、十分な返礼ができないでいるとプレッシャーが負い目となって負債を背負っているような感覚になってしまうので、贈り手してもらい手に対して上の立場に立ち、支配しコントロールすることができるようになる、ということ。

問五 認知症の人々が問題行動を起こさないように、何もしないことを強要し、全てやってあげるという形でコントロールするのではなく、間違いに寛容な環境を作り、それぞれの人々の特性に沿って潜在能力を引き出し、尊厳をもって主体的に働けるようにすることを大切にしている、ということ。

問六 特定の行為が利他的なものであるかどうかは行為の時点では決定できず、相手がそれに感謝し、利他的な行為だととらえた時に、はじめて利他的な行為だと認定される、ということ。

二

① 順延 ② 風紀 ③ 辞(さない) ④ 拝(む)

⑤ 郵送 ⑥ 乳歯 ⑦ 息災 ⑧ 宝庫